中部産業遺産研究会

中部産遺研会報

ISSN 2189-5619
Vol.67
2017/07/15

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

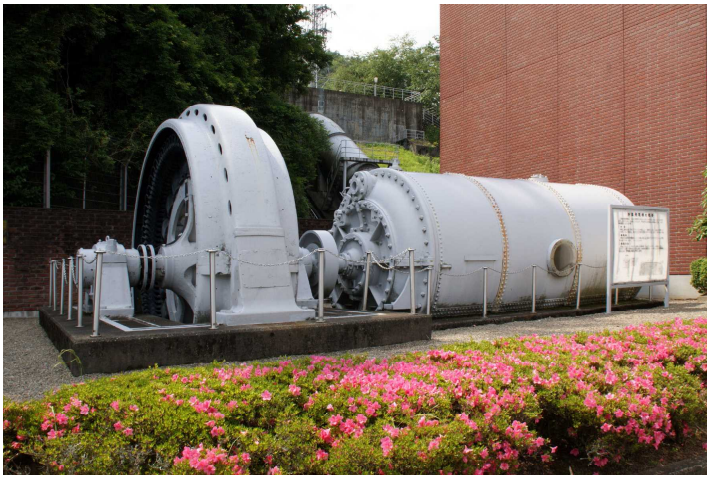
産業遺産紹介 IH-CSIH-045
長良川発電所の水車と発電機

所在地：岐阜県美濃市立花

長良川発電所は、1910(明治43)年、名古屋電灯(株)が美濃市立花の長良川右岸に建設した水路式の発電所である。発電所には、二組の水車と発電機が設置され、4200kWを発電し名古屋へ送電した。

長良川発電所に設置された当初の水車はドイツ、フォイト社の1907年製、円筒形ケーシングのフロンタル型横軸双輪単流フランシス水車、HF-2RFW型、出力2330kWである。対になる発電機は、ドイツ、ジーメンス・シュッケルト社の1907年製、回転界磁型発電機、容量(出力)2500kVAである。

［写真1］長良川発電所の正門と本館（2009/06/06 石田正治）



［写真2］ドイツ製水車と発電機（2009/06/06 石田正治）

現在の長良川発電所を管理する中部電力(株)は、1981年に老朽化した発電設備の設備改修を行い、新しい水車･発電機に取り替えた。その時、歴史的水力発電所を調査研究していた産業考古学会会員の提言により、旧水車と発電機一組が発電所建屋横の庭に写真に示すように保存展示された。

2000年に長良川発電所の本館と正門など３物件、2001年に日谷水路橋や湯之洞谷水路橋、取水口呑口上部など７物件が国の登録有形文化財に登録されたが、旧水車と発電機は文化財として登録はされなかった。　（高橋伊佐夫）

中部産遺研会報　第67号　目次

１．産業遺産紹介／高橋伊佐夫 ---------- 1
２．石積み砂防堰堤を訪ねて（１）／田口憲一 ---------- 2
３．マグデブルク大学にてレントゲン線発見の研究室と記念碑を見学して／永田　宏 ------ 4
４．書籍紹介・釧路市立博物館『釧路・根室の簡易軌道』／藤井　建 ---------- 6
５．第25回総会・第144回定例研究会の概要／大橋公雄 ---------- 6
６．第147回定例研究会・第５回さんぎ大学案内 ---------- 10
７．第148回定例研究会・見学会案内 ---------- 10
８．事務局より、編集後記、原稿募集 ---------- 10

石積み砂防堰堤を訪ねて(1)

福山藩砂留

The Check Dam of the Fukuyama Clan

田口憲一／ TAGUCHI, Noriichi

キーワード；砂防、砂留、石張り堰堤、堂々川、福山藩

1. はじめに

江戸時代に福山藩が本格的な砂防施設を築造していたことは、大変有名なことである。

元禄13(1700)年には堂々川に砂留があったことが記録に残っている。以後多くの砂留が造られている。元文3（1738）年に築造され、明治15(1882)年に増築された記録の残る、深水古砂留は石張り土堰堤（流水路が石張り）である。福山藩の砂留は明治以降も増築・嵩上げなどをして砂防機能を維持・増強し現在も現役のものが多くある。

広島県が発行している『福山藩砂留　案内』によると、福山藩が築造した砂留の型式は次の４型式である。

①石張り土堰堤（土砂止）型式
②石塊段積（鎧積）堰堤型式
③もたれ式石殻よう壁体型式
（堂々川三番砂留の発掘によって判明）
④石壁堰堤型式

2.現地視察

2015年4月23日、新幹線とレンタカーで日帰り調査旅行。11時過ぎには堂々川１番砂留に到着。現在の流れの横に階段状の石積みが残っていた。上記②の石塊段積堰堤だが両岸の土堰堤部分が流失して石積みだけが残っているのだ。最初は理解出来なかった。

［写真1］堂々川一番砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

近くにいた人に聞いてみた。偶然にも地元の方で堂々川ホタル同好会の事務局長であった。解説していただいた。周辺の砂留について有用な情報を頂き、以後の行動に役立った。

堂々川筋の８基（堂々川一番～六番砂留と鳶ヶ迫砂留・内廣砂留）の砂留は登録有形文化財に登録されている。下流から順に車を止めて見学した。

［写真2］堂々川六番砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

鳶ヶ迫砂留と内廣砂留は六番砂留横の駐車場から歩く。内廣砂留以外は見通しも良く、周辺整備が行き届いていて全景もよく見える。六番砂留は圧巻であった。堤高13.3m、②の石塊段積堰堤で堂々としている。天保6(1835)年築造、上層明治15(1882)年増築嵩上げ、最上層は昭和に増築された。全体に成層布積である。周辺は親水公園となっていて、六番砂留は堂々川砂留群のシンボルとなっている。右岸を少し西へ遡ると鳶ヶ迫砂留がある。修復されているようだが見応えがある。堤高10.7m、享保17（１７３２）年（推定)、明治以降修理・嵩上げされている。平面的には全体が緩いアーチ形をしている。

さらに上流に進むと淀ガ池があり、その周辺にも江戸中期に造られた大小の砂留がある。

周りの立木が伐採してありわかりやすい所もあった。

一度下って人家の中を西へ進み深水を目指す。この辺かなと思われるところで、自転車に乗った男性

に聞く。「案内してやる」と言われ従う。深水古砂留と深水砂留は直ぐの所だった。時間を心配して、彌谷砂留を先に案内してもらう。途中の雑談で岐阜県から来たことに驚いていた。彌谷砂留は思ったより藪の中だった。かなり壊れていたが、④の石壁堰堤で堤高7.2mである。

［写真3］鳶ヶ迫砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

［写真4］深水古砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

［写真5］深水砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

元の道に戻って、深水砂留を見る。これも④の型式、堤高4.1m、安政元(1854)年築造、元治・明治年間に増築。

山田砂留は更に西にある。竹藪の中で全貌は掴みにくい。④の石壁堰堤、２段になっているようにも見えた。左岸には用水路がありレベルから見ると砂留の上から水を引いているようにも見えた。

更にまた西へ行き、小川に沿って遡る。圭峰砂留は民家が途絶えて直ぐの、山の入り口にあった。看板も無し。近くの人に聞いても知らないとのこと。そこから上流に圭峰中砂留、圭峰古砂留と続いてあるが、何れも林の中で写真には上手く撮れない。

［写真6］彌谷砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

［写真7］圭峰中砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

［写真8］小部上砂留　(2015/4/23、筆者撮影)

最後に、少し戻って更に奥の小部砂留群を目指す。場所が分からず迷ったが、入り口あたりにたどり着く。畑で作業をしていた人に聞くと、向こうの草の茂った山道を登ったところだとのこと。車を降りて草むらを進んでいたら、後ろから軽トラが登ってきた。さっきのおじさんだった。乗せてもらい、現地まで案内してくれた。現場はひどい藪の中にあり石積みを確認するのも困難だった。相当壊れていて近寄れなかった。多分小部上砂留だと思われる。そこから下流に、小部下砂留、小部古２番砂留、小部古１番砂留と続いている。何れも立木・竹藪で全貌は掴みがたい。写真も上手く撮れない。先ほどのおじさんにお礼を言って帰途につく。帰りがけ、小部集落で見た石積み途中の積み方も、成層布積みで昔からの積み方が伝えられていることがよく分かった。

最後に福山駅裏の福山城の石垣を列車の時間まで見学した。ここでも布積みが認められた。

②の石塊段積（鎧積）堰堤は、明治になってデレーケの指導によって造られた滋賀県草津川上流の通称「オランタ堰堤」、「鎧堰堤」、京都府不動川のデレーケ堰堤群の階段状堰堤などと非常に良く似ている。同じ型式とも言える。しかし現在までの所、両者の関係は全く認められていない。はっきりしていることは、福山の方が百数十年も前のこと。恐らく度重なる災害を受けた経験によって、強靭で優れた構造が考案され現在まで残っている。本邦独自の砂防工法が存在していたのだ。

［写真9］小部地区で見た現在の石積み
（2015/4/23、筆者撮影）

［写真10］福山城の石垣　（2015/4/23、筆者撮影）

【短信】

ドイツのマグデブルク大学にてレントゲン線発見の研究室と記念碑を見学して

永田　宏／ NAGATA, Hiroshi

2009(平成21)9月、ドイツとチェコスロバキアを周遊旅行の際、ドイツのヴィルツブルク大学構内にあるレントゲン線発見の研究室と記念碑を見る機会があった。

レントゲン博士(Wilhelm Conrad Röntgen、1845～1923)は、1880年から1900の間、ヴィルツブルク大学(以下、大学と略)の教授を勤め、1895年、偶然の機会からＸ線（「未知」の意味から）を発見した。後にドイツでは、同博士の功績を記念してレントゲン線と呼んでいる。

レントゲン博士は、1901年ノーベル賞の第１回物理学賞を受賞した。

［写真1］レントゲンの研究室のあるヴィルツブルク大学の建物
（2009年9月21日、筆者撮影）

レントゲンの研究室のある建物は外部との柵もなく、立ち入りが容易で、写真の建物中央より入ることができた。

廊下の突き当たり、奥まったところに研究室はあ

［写真2］レントゲンの研究室　（2009年9月21日、筆者撮影）

った。研究室には入ることは出来ず、窓ガラス越しに何とか内部の様子をカメラに収めることができた。廊下の壁面には掲示板があり、廊下には写真が展示してあった。

［写真3］展示のクルックス管、説明に「Ｘ線発見と同じものでジーメンス・ハルスケが製作した」（2009年、筆者撮影）

［写真4］壁面の資料展示（2009年9月、筆者撮影）

［写真5］大学構内にあるレントゲンのモニュメント
（2009年9月、筆者撮影）

記念碑と銘板は一対として大学構内にある。外部から自由に見学できる。記念碑は高さ約2.5m、見られるようにレントゲン線の「光芒」を表徴するかのように周囲に線が走っている。記念碑の左側に銘板がおいてある。

銘板：Wilhelm Conrad Röntgen zum Gedenken, hier entdeckte er am 8. November 1895, die nach Ihm bennanten Strahlen gestiftet 1970. Verschönerungsverein Würzburg

「ヴィルヘルム・コンラート・レントゲンがここで1895年11月８日、後に彼の名をつけた放射線の発見を記念して1970年に建立した　ヴィルツブルク環境美化協会」（石田正治訳）

［写真6］建物壁面の表示　（2009年9月、筆者撮影）

【書籍紹介】

釧路市立博物館『釧路・根室の簡易軌道』

藤井　建／ Fujii, Ken

本書は、釧路市立博物館創立80周年企画展として昨年10月から今年1月に開催された「釧路・根室の簡易軌道」展の展示写真や資料に加え、関係者からの聞き取りや鉄道ファンなどの寄稿をまとめ、今春、発行されたものである。

本書で取り上げる「簡易軌道」とは、関東大震災後、本州から北海道の道東・道北に移住し、開拓した土地と国鉄の駅を結んだ輸送機関である。

軌間が762㎜と狭く、動力も初期（一部は後期まで）には主に馬力が使われ、その後、徐々に内燃動力に移行したという文字通り簡易な軌道である。いわば、かつての護岸工事などで目にしたトロッコをもう少しレベルアップしたものと思えばよいであろう。

軌道と名がつくが、地方鉄道法（現・鉄道事業法）や軌道法による鉄道や軌道ではなく、戦前は内務省が所管したことから「殖民軌道」と呼ばれ、戦後は農林省の所管となり「簡易軌道」と呼ばれ、実際の運営を町や村で行ったため町営軌道、村営軌道とも呼ばれた。

開拓地での農産物や牛乳を街（国鉄の駅）まで輸送し、街からは生活物資を運んだ。また、人も乗せる旅客輸送も行う地域の重要な交通機関だった。しかし、道路整備が進み、トラックやバスに転換し、廃止への道をたどった。

本書では、昭和35年以降も存在した釧路・根室地方の４つの軌道（鶴居村営・標茶町営・浜中町営・別海村営）と４つの馬力線（久著路・阿歴内・仁々志別・養老牛）を採り上げ、詳しく解説している。

開拓地の生産物の輸送手段そして開拓民の足として活躍した簡易軌道の廃線跡や保存されている車両は立派な産業遺産といえよう。

写真はカラー・モノクロ含めて350点以上あり、地図や資料も含め簡易軌道を知るための資料として価格以上の満足を得られる一冊である。

・136ページ　750円

◆本書の入手方法（博物館の指定である）

①郵便局にて、冊子価格分の「定額小為替」を求める。本冊子１冊の場合､750円。（小為替１枚あたり手数料が100円かかる。）

②購入希望冊子名と住所・氏名・連絡先を書いたメモと定額小為替を、下記へ送ればよい。

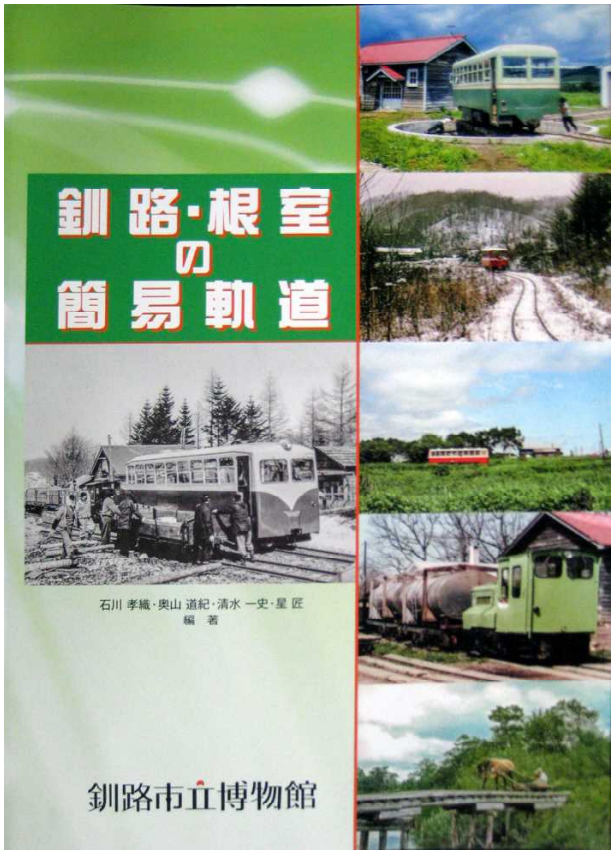
《〒085-0822 釧路市春湖台１-7　釧路市立博物館》

③冊子は《着払い》の「ゆうパケット」もしくは「ゆうメール」で送られるので、送料は到着時、配達員に支払う。

＊詳しくは、釧路市立博物館ホームページを参照。

http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/kikaku/2016/kan-i-kidou.html

※『記録集』は在庫寡少です。



「釧路・根室の簡易軌道」展の記録集の表紙

第25回総会
第146回定例研究会の概要

大橋公雄／ Ohashi, Tadashi

日時：2017年05月29日（日）　13:00～17:00

会場：名古屋市市政資料館

司会：漢人省三　　記録：山田　貢

■第25回　総会

会長挨拶　永田　宏

議長に永田会長を選出。議長より、出席者35名で総会は成立しているとの表明があった。

1. 2016 年度(平成28年度)事業報告／大橋公雄

2015年度の総会、定例研究会、シンポジウム、その他の催しなどの事業実施について議案を読み上げて、事務局長から報告があった。

報告について、会員より反省点はないか、との質問があり、パネル展講演会の内容について意見があった。また、シンポジウムの運営についても意見があった。定例研究会では、意見交換の場をふやしてほしい旨の発言がはった。

事業報告の書き方について、評価、反省点を加えるとよいとの意見があり、次年度より、出された意見を踏まえて改善していきたいとの事務局長からの回答があった。

2. 2016 年度(平成28年度)決算報告／朝井佐智子

2016年度の研究会決算、特別会計決算（田中基金)、シンポジウム積み立て決算について、朝井会計幹事から議案に基づき報告があった。

また、今回から会計報告書のフォーマットを変えた。シンポジウムの積立金について、次年度より会の本会計に組み入れたいとの説明があった。

3. 2016年度(平成28年度)会計監査報告／植田泰司

2016年度の研究会会計・ 特別会計について適正に処理されていることが植田会計監査より報告があった。

上記1～3について、一括して承認された。

4. 2017年度(平成29年度)事業計画(案)／大橋公雄

2017年度の総会、定例研究会、シンポジウム・見学会などの事業計画が議案に基づき、提案された。

5. 2017年度(平成29年度)予算(案)／朝井佐智子

議案に基づき2017年度(平成29年度)予算について提案された。今回からフォーマットを変え、シンポジウム積立金については、会の本会計に組み入れた。

4.事業計画（案)・5.予算（案）ともに意見なし、拍手で承認された。

6. その他

2016～2017年度役員・分掌組織、役員及び分掌幹事について、中住健二郎顧問の逝去に伴い修正した、との報告が事務局長よりあった。

■記念講演

「私と鉄道趣味そして岡崎市内の鉄道・産業遺産」
／藤井　建

講演の概要は以下の通りであった。

はじめに略歴が紹介された。鉄道との出会い、岡崎高校鉄道同好会設立したこと、1973年路面電車同好会入会、1970年代後半に産業考古学会との出会い、現在はNPO法人名古屋レールアーカイブスの理事長を務めている。

記念講演される藤井建氏

スライドによる岡崎の鉄道遺産があった。明治29年岡崎駅開業、岡崎電気軌道は馬車鉄道を経て大正元年に開業した。昭和5年には、省営バス岡多線が開業した。岡崎は５つの鉄道に囲まれていた。

国鉄自動車発祥の地の碑があったが、岡崎営業所がなくなるとどこかへ行ってしまった。瀬戸の「瀬戸蔵」の前には写真入りの碑がある。

［質疑］

講演に関し、以下の質疑があった。

質問：岡崎駅が今の位置にある理由は何か。

回答：岡崎の中心から離す反対運動の説もあるが、実際は土木技術と地形の関係と考えられる。豊橋から岡崎へ直線で結ぶには本宿を超えなければならず、急勾配ができる。矢作川は直角に渡らなければならず、当時の技術では今の経路になる。

■第146回定例研究会

1. 研究報告、調査報告

［146-11-01］「ブリューナ・エンジン複製成功の諸因子、他」／島和雄

群馬県富岡のブリューナ・エンジン複製事業についてスライドで報告があった。

富岡市の商工会議所工業部会の関係者の１回目の調査は真冬の明治村であった。彼らは作業着でやって来て、エンジンを前にして、あらかじめ打ち合わせしてあったかの如く真剣にスケッチしていた。２回目の調査は真夏に行われた。３回目はキハラ鋳造所の関係者が来た。やる気だなと思ったと報告者は語る。

富岡市商工会議所の関係者でブリューナ・エンジンが復元がなぜ出来たのか。東京から100ｋｍ圏内にあり、10～20ｋｍ四方に80くらいの製造業がある。精度を要する鋳物を作ることで知られるウエムラ鋳造がフライホイールを鋳造し、ＩＨＩは直径2.5ｍのフライホイールの加工を引き受けている。

複製エンジンが完成したと聞き、富岡まで見に行ったが、最初は確認したのみで帰った。２回目に訪れた時は、産業遺産研究の視点で繁々と見て大変なことに気づいた。フライホイールが最新技術を駆使して一体で造られているのである。オリジナルは３

つに分けて造られている。

彼らは「やったやった」と喜んでいるが、これは学術的に見て、当時の技術を正確に再現しているとは言えない。複製ではなく、まったく違うモノを作っているのである。このような場合、我々としては、どのように対応すべきであろうか。

[146-11-02]「福島の原発事故の放射線測定と遺産」／市野清志

パワーポイントのスライドデータをもとにして、報告があった

放射線測定器（報告者の所有）を数々持参し、福島県の各地で測定した。

東京をスタートして5000箇所のデータ測定した。福島第一原子力発電所のすぐ北の地面は0.3マイクロシーベルトであった。原発の建物が見える高いところで中性子を測定した。測定値は3マイクロシーベルトであった。子どもたちが遊んでいるところの新築の住居付近では、質量1kgにつき、8000～10000ベクレルを測定した。セシウムに関しては公式発表とほぼ同じ測定値が測定された。

福島の遺産について、国・県指定の文化財は移動した。放射線が高いため管理して保管中との報告があった。また、文化財は盗難が多く発生した、との報告があった。

2. その他の諸報告、保存問題

なし

3. 研究誌、会報（研究会ニュースレター）

[146-31-01] 研究誌『産業遺産研究第24号』について／浅野伸一

[146-31-02] 会報ニュースレター　電子メール版の原稿募集／橋本英樹

4. シンポジウム・パネル展

[146-41-01] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第36回／八田健一郎

[146-41-02] 2017年度パネル展と講演会「東海の国産車の黎明期」（仮）／藤田秀紀

・2017年度パネル展（第13回）
11月28日（火）～12月10日（日）
名古屋市都市センター予定

・パネル展講演会
2017/12/03(日) 13:00～

5. 見学会、その他の催し物

[146-51-01]「定例研究会で見方調べ方や調査研究報告予定及び見学希望の申し出のお願い」／企画幹事

[146-51-02]「第5回さんぎ大学」

日時：2017/07/23（日）14:30～
会場：トヨタ産業技術記念館

[146-51-03] 2017年度産業考古学会名古屋大会／天野武弘

◇2017/10/27（金）午後　プレ見学会
四日市港末広橋梁、四日市旧港の潮吹き防波堤、臨港橋、四日市公害と環境未来館などの見学

◇2017/10/28（金）研究大会
会場：トヨタ産業技術記念館

◇2017/10/29（土）見学会
主な見学候補先：松阪木綿の御絲織物工場、櫛田川河口突堤、藍畑、松阪市歴史民俗資料館、市内散策（旧カネボウのレンガ工場、本居宣長旧邸宅、松阪商人の館など）、または丹生鉱山跡、立梅用水井堰も検討中、昼食は、相可高校の「高校生レストラン」の弁当を予定。中部産遺研会員は、参加可。

[146-51-04] 第18回「ものづくり文化再発見！ウォーキング 常滑市コース」／柳田哲雄

日時　平成29年06月17日（土）
集合　9:00-10:00 名鉄常滑駅
コース　名鉄常滑駅(スタート) ⇒ 常滑焼と陶芸体験まるふく ⇒ とこなめ陶の森⇒ 常滑焼ヤマタネ ⇒ INAXライブミュージアム ⇒ 陶彫のある商店街 ⇒ 渡辺章製陶所 ⇒ 登窯(陶榮窯) ⇒ 登窯広場展示工房館 ⇒ 廻船問屋瀧田家 ⇒ 土管坂 ⇒ グラスワークス・楽 ⇒ 角山陶苑 ⇒ 常滑市陶磁器会館 ⇒ にざまつ散歩道店 ⇒ 大蔵餅本店 ⇒ めんたいパークとこなめ ⇒ イオンモール常滑(ゴール)
※歩行時間　約3時間

6. 文献紹介、資料紹介

[146-61-01]『産業考古学研究』2017年第４号 2017/5/15　東京産業考古学会／事務局

[146-61-02]「ニュズレター」2017.1.15 No.0122 東京産業考古学会／事務局

[146-61-03]「ニュズレター」2017.3.15 No.0123 東京産業考古学会／事務局

[146-61-04]「ニュズレター」2017.5.15 No.0124 東京産業考古学会／事務局

[146-61-05]「ニュズレター」2017.5.15 No.0124 東京産業考古学会／事務局

[146-61-06] KINKIS「ニュズレター」2016.12.10 No.93　近畿産業考古学会／事務局

［146-61-07］KINKIS「ニュズレター」2016.1.15 No.94　近畿産業考古学会／事務局
［146-61-08］石田正治・山田俊明編著『図説　鉄道の博物誌　ものづくり技術遺産（鉄道の革新）』、秀和システム、2017年／事務局
［146-61-09］若林高子、北原なつ子著『水の土木遺産』、鹿島出版会、2017年／北原なつ子
［146-62-01］第４回全国風穴サミットin 信州小諸『～神々にいる風穴～』2017/9/2-3、小諸交流センターステタホールにて≪特別展：小諸風穴群の蚕種貯蔵所史料展≫／事務局
［146-63-01］「地方史情報」131、岩田書院、2016.12／事務局
［146-63-02］岩田書院 図書目録、2017／事務局
［146-63-03］寄贈　エプソン　マルチメディア・プロジェクターEMP-54　杉本漠三氏より

7. 出版広報事業

［146-71-01］インターネット
http://csih.sakura.ne.jp/
URLは上記です。一度ご覧下さい。

8. 委員会、役員会、研究分科会

［146-81-01］幹事会・役員会等／事務局
2017年度（平成29年度）
・第１回幹事会・役員会合同会議2017/05/07（日）13:00-16:00 とよた市民活動センター会議室
　総会準備について
・第１回幹事会2017/05/11（メール）
　第４回全国風穴サミットの後援名義、
・監査　2017/04/15　（日）13:00～16:30
　名古屋市東生涯学習センター　和室
［146-81-02］シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第35回実行委員会
・第１回 2016/03/20（日）10:00～
　緑生涯学習センター　会議室
・第2回 2016/05/28（日）10:00～
　名古屋市市政資料館　集会室
［146-81-04］2017年度第13回パネル展「中部の国産車の黎明期（仮）」勉強会
・第１回2017/02/05（日）14:00～16:30
　名古屋都市センター13F
・第２回 2017/04/09（日）14:00～16:30
　名古屋都市センター13F
・第３回 2017/06/11（日）14:00～16:30
　名古屋都市センター13F
・第４回 2017/08/06（日）14:00～16:30
　名古屋都市センター13F
・第５回 2017/10/08（日）14:00～16:30
　名古屋都市センター13F
・第６回 2017/11/12（日）14:00～16:30
　名古屋都市センター13F　パネル最終確認
［146-81-05］研究誌『産業遺産研究第24号』編集委員会
・必要に応じて電子メールや電話にて開催

9. 総務・事務局関係

［146-91-01］2016年度会費／会計幹事
年会費四千円振り込み先は、下記までお願いします。（会計幹事）
［銀行口座］三菱東京ＵＦＪ銀行　鳴海支店
普通預金
口座名：中部産業遺産研究会
口座番号：１５３１２６６
［146-91-02］会員名簿／事務局
会員で住所・所属など掲載事項の変更などあれば事務局大橋へ連絡ください。
会員名簿を７月に発行します。名簿に掲載不用の方は事務局まで連絡をお願いします。
［146-91-03］研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他
・中部産業遺産研究会　第24回総会/第146回定例研究会
　2017/05/28（日）13:30～
　名古屋市市政資料館　第３集会室
　（地下鉄「市役所駅」東へ500m）
　記念講演「鉄道と産業遺産」／藤井　建
・第147回例会　2017/07/23（日）13:00～14:15
　トヨタ産業技術記念館 ホールＡ
・第５回さんぎ大学　2017/07/23（日）14:30～16:50
　トヨタ産業技術記念館 ホールＡ
・第148回例会/見学会　2017/09/24（日）13:00～
・産業考古学会2017年度全国大会
　2017/10/27～10/29 トヨタ産業技術記念館、見学会
・豊田佐吉生誕150周年記念行事　2017/11/12
　トヨタ産業技術記念館
・第149回例会/パネル展講演会　2017/12/03（日）
　13:00～17:00 名古屋市都市センター予定
・第150回定例研究会 2018/01/28（日）13:00～17:00
・第151回定例研究会/見学会 2017/03/25（日）
　13:00～17:00　予定
［146-91-04］会員異動／事務局
現在、会員数126名。

第147回公開定例研究会 案内
第5回さんぎ大学 案内

日時：2017年7月23日（日） 13:00～17:00
会場：トヨタ産業技術記念館 ホールA

■第147回公開定例研究会 13:00～14:00

報告「『水の土木遺産』出版について」／北原なつ子、他

※『産業遺産研究 第24号』配布予定。

■第５回 さんぎ大学 14:30～17:00

講話１：「自動車館の金属熱処理設備の展示とその技術移転史」
講師 橋本英樹（新和実業株式会社 代表取締役）

講話２：「アナログメカの魅力 ～先人たちの知恵と工夫のモノづくり」
講師 木村雅人（トヨタ産業技術記念館 学芸員）

第148回定例研究会・見学会案内

日 時：2017年9月24日（日） 朝8時集合、出発
集合場所：名古屋駅モード学園ビル北側・菱信ビルの南、名鉄観光バス
見学行程：岡谷蚕糸博物館、岡谷の産業遺産めぐり、諏訪の片倉館、ホテルなど
旅 費：10,000円、 **定 員**：20名、
申込締切：8月31日（定員になり次第締切ます。）
申込先：事務局大橋公雄まで申込書と旅費振込で参加確認、詳細は見学会案内参照。会員の同伴者、知人や友人も参加できます。

■事務局より

研究会の会員名簿を７月に発行予定です。

掲載事項は氏名、住所、電話、FAX, メールアドレス、所属です。変更のある方は事務局大橋公雄まで。

２０１７年度年会費ご入金のお願い

1. 年 会 費 4,000円
2. 振込口座

銀行支店 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店
種 別 普通預金
口座番号 1531266
口 座 名 中部産業遺産研究会 会計係
朝井佐智子（あさい さちこ）

※ 2017 年度会費を上記口座にお振り込み下さい。

■広報幹事より

電子メールアドレスをお持ちの方で、電子メール版ニュースレターを受信されていない方は、広報幹事（hidekih@wine.plala.or.jp）まで必ずご連絡ください。

■編集後記、原稿募集

■編集後記

今号の「産業遺産紹介」は、高橋伊佐夫会員に寄稿していただきました。また、田口憲一会員による「砂防堰堤シリーズ」の連載が今号より始まりました。次号以降の記事にご期待下さい。これからも会員の皆様の積極的な投稿を期待しています。 （石田）

■産業遺産に関する諸情報、短信、文献紹介、ご意見などお気軽にご投稿下さい。投稿は郵送または電子メールでお送り下さい。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けて下さい。

原稿送付先：石田正治 ishida96@tcp-ip.or.jp
第68号の原稿締切日：2017/09/20

■「中部産業遺産研究会会報」発行予定

第68号（2017/10/15） 第69号（2018/01/15）
第70号（2018/04/15） 第71号（2018/07/15）

中部産業遺産研究会 CSIH

中部産遺研会報 第67号 ISSN 2189-5619
Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.67
発 行 日：２０１７年７月１５日
発 行 人：永田 宏
編集委員：石田正治・橋本英樹・大橋公雄・浅野伸一・野口英一朗
中部産業遺産研究会事務局：
〒458-0804 名古屋市緑区亀が洞三丁目1740 大橋公雄気付
中部産業遺産研究会のホームページ http://csih.sakura.ne.jp/index.html
掲載記事の無断転載を禁じます。
Copyright 2016, The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.